

科目名称：京都大学森里海連環学実習II：北海道東部の森と里と海のつながり

- 単位数：2単位
- 担当教員：京都大学 小林 和也、中山 耕至、杉山 賢子
- 実施時期：2025年9月14日（日）～ 9月20日（土）
- 集合時刻：2025年9月14日（日） 17：30
- 集合場所：JR釧網線 標茶駅
- 解散時刻：2025年9月20日（土） 9：00頃～
- 解散場所：JR根室本線 厚岸駅

実施場所：京都大学フィールド科学教育研究センター 北海道研究林標茶区

〒088-2339 北海道川上郡標茶町多和553番地

Tel: 015-485-2637 Fax: 015-485-4016

Web: <http://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/hokkaido/>

E-mail: hokuken@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

対象学生：他大学の全学部

定員：4名

実習課題：北海道東部の自然環境と人のつながりを学ぶ

到達目標：自然景観が気象・地象・海象・生物・人為の相互作用によって形成されていることを実体験することを目的に、北海道東部にある別寒辺牛川上流の自然度が高い森林域、牧草地として土地利用されている支流の上流部、別寒辺牛川湿原のなか、そして下流の厚岸湖・厚岸湾の生物調査、水質調査などを通して、森－川－里－海のつながりについて学ぶ。森と川と海が生物を通してつながっていること、さらに人間がそのつながりにどのように関わっているかを実習中に得られたデータや知見をもとに理解を深めることを目的とする。

実習内容：本実習では、京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林標茶区、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所を拠点に、森林における植生及び土壌・水質調査実習、別寒辺牛川での生物・水質調査、厚岸湖・厚岸湾での生物調査をそれぞれ2日間程度ずつ実施する。

講義は、京都大学フィールド科学教育研究センターと北海道大学北方生物圏フィールド科学研究センターの教員がそれぞれ担当する。

1. 「森里海連環学の課題」（北海道大学教員）
2. 「根釧地方の自然環境と産業」（北海道大学教員）
3. 「生物の分類と同定」（小林）
4. 「流域の土壌・植生と物質循環」（北海道大学教員）
5. 「河川生物の調査法」（中山）
6. 「水質分析法」（北海道大学教員）
7. 「厚岸湖・厚岸湾の調査方法」（北海道大学教員）
8. 「海洋環境と植物プランクトン」（北海道大学教員）

9. グループ発表「別寒辺牛川流域の森里海連環学－森・川・海・人間活動の視点から」
(小林・杉山・中山・北海道大学教員)

成績評価：各担当教員の課題レポート(45点)、実習への取組状況(25点)、最終発表およびレポート(30点)で総合的に判断する。レポートは、班ごとで毎木、昆虫、土壌、河川水生生物、厚岸湖水生生物調査について作成するとともに、実習生個人で、植生、昆虫、土壌、動物、水質などの中から4つ選択して作成する。また、各班それぞれの観点から別寒辺牛川流域全体の森川里海の連環について発表し、最終レポートを提出する。

実習日程

- 第1日：JR釧網線 標茶駅集合、北海道研究林管理棟においてガイダンス
道東の自然環境および産業に関する講義、樹木識別実習
- 第2日：研究林での天然林毎木調査、昆虫相調査、土壌調査実習
- 第3日：大規模人工林見学、樹木実習、昆虫相調査、源流域の河川生物調査
- 第4日：別寒辺牛川の上流から河口にかけて河川生物調査
- 第5日：厚岸湖・厚岸湾の水質・海洋生物調査
- 第6日：データ整理とグループ発表
- 第7日：レポート提出後解散

参加費用：13,000円程度（滞在中の宿泊費および食費実費）

集合・解散場所（JR標茶駅・厚岸駅）と居所間の交通費は別途自己負担

希望に応じて実習の前後泊に対応します。後泊する場合は北海道研究林泊となり、解散場所はJR標茶駅になります。

※感染症対策として以下のお願いをしています

- ・流行状況に応じ、実習内容や募集人数、日程を変更する可能性があり、オンライン開催や中止になることもあります。
- ・インフルエンザ、麻しん、新型コロナウイルス感染症など学校保健安全法施行規則の定める出席停止に該当する方は参加をお断りしています。
- ・当日の体調に異常（熱、せき、倦怠感・喉の痛み、味覚障害など）のある方の参加はお断りしています。
- ・宿泊は京都大学北海道研究林および北海道大学厚岸臨海実験所になります。数名の同性の学生との相部屋、風呂トイレ共用になります。感染予防は行いますが、リスクを完全に回避することはできないこと、実習中に発症した場合は医療へのアクセスが都市部と比べ困難であることをご理解のうえ受講を申し込みください

提出書類：自大学の教務（学務）担当者と相談の上、下記の書類を提出すること。

下記、IとIIの受入身分の違いによって提出期限と提出書類が異なるので注意すること。

I. 京都大学農学部特別聴講学生となる場合 **6月9日(月)必着**

以下の書類を整えて、所属する学部の教務掛等から提出すること。

- ①学部長等の依頼書（別紙様式1）
- ②履修願（別紙様式2）
- ③学研災（[学生教育研究災害傷害保険](#)）と
学研賠（[学研災付帯賠償責任保険](#)）の加入を証明する文書のコピー

II. 京都大学農学部特別聴講学生とならない場合 **7月9日(水)必着**

以下の書類を希望学生自身が提出すること（指導教員、クラス担任等の承諾が必要です）

- ①受講願（別紙様式3）
- ②学研災（[学生教育研究災害傷害保険](#)）と
学研賠（[学研災付帯賠償責任保険](#)）の加入を証明する文書のコピー

定員を超える応募があった場合、特別聴講生が優先され、必要に応じて抽選を行います。

提出先：I,II共通

京都大学フィールド科学教育研究センター 教育関係共同利用拠点事務局 宛
(郵送の場合は封筒の表に「森里海連環実習II受講申込書在中」と朱書きすること)

住所：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

TEL：075-753-6443 FAX：075-753-6443 Email：akh@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

保険について：学生教育研究災害保険等の傷害保険に必ず加入すること。また、旅行保険に加入することを推奨する。なお、保険加入にあたっては、家族等とよく相談すること。

キャンセル：定員があるため、受講を希望しても参加できない学生が出る可能性がある。このことを念頭に、直前になってキャンセルすることのないように日程等をよく検討してから申し込むこと。